# 巻　頭　言

経営情報学部長　松浦　博

2016年３月11日、東日本大震災から５年を迎えました。復興庁による東日本大震災からの復興の状況に関する報告（平成27年11月）によると、東日本大震災による避難者は震災直後の約47万人から約19万人に減少し、震災後に仮設住宅などで生活していた入居者の数も次第に減り、住まいの再建への動きがみられるようになってきています。

しかし、被災３県では、受け皿となる災害公営住宅の遅れなどによる仮設暮らしの長期化、独居高齢者などの外出機会の減少による健康悪化、原発事故に伴う除染で発生した福島県内の汚染土処理、中間貯蔵施設の建設予定地の問題、風評被害など、まだまだ解決していくべき問題は山積みであり、復興自体が順調に進んでいるとは言い難い現状もあります。事故から５年たった今だからこそ、被災地の現状を知り、何ができるのか、そして震災の教訓を自分のものとするためには、何ができるのかを考える時期にきていると思います。

本学部においては、本年度に新たに導入した一般前期の英語と数学の選択受験において、４倍以上の応募をいただくことができました。入学試験が終わり、本学部においてもまた新たな新入生を迎えることになりますが、自分たちが迎えようとする将来社会についての考えを深め、震災復興を初めとする様々な社会問題に関心をもち、自ら取り組むべきことを明確にし、大学生活を充実させていただきたいと願っています。

さて、小林みどり教授、末松俊明准教授がこのたび無事定年を迎えられました。お二人とも創立間もない頃から30年近くに亘り、静岡県立大学経営情報学部を支えていただきました。創立当時の林周二学部長の打ち立てたカリキュラムの特色は「徹底指導、文系・理系のハイブリッド教育」にありました。公立大学で初となる経営情報学部を作るに当たって、「①在来型の経営諸学」「②情報処理技術の習得」だけでなく「③応用数学、統計学、数理社会諸科学」を身につけさせて、③を①②と組み合せて応用力を付与する教育を行うとされました。まさに、お二人は③に貢献していただいたのはもちろんのこと、経営情報学部が設立理念を忘れず幾多の困難に立ち向かって、今に存続していることにまさに貢献いただいたと思っております。小林先生、末松先生のご功労に敬意を表し感謝申し上げると共に、今後のますますのご活躍とご健勝をお祈りいたします。